

特定非営利活動法人水産物トレーサビリティ研究会
「平成 18 年度総会及び講演会」報告

日時：平成 19 年 4 月 19 日（木） 13 時～16 時

会場：函館市産学官交流プラザ（北海道大学函館キャンパス内マリンサイエンス創成研究棟）

共催：函館水産物商業協同組合、函館国際水産・海洋都市構想推進協議会、北海道技術士センター 北方海域技術研究会・道南技術士協議会

平成 18 年度総会（13:00～13:45）

司会の古屋常務理事からの資料説明の後、研究会専務理事の大塚議長の進行により、平成 18 年度の事業報告および収支決算報告、平成 19 年度の事業計画（案）と収支予算（案）についての議案が採択されました。

講演会（14:00～16:00）

「食の安全・安心を保证するシステム構築と社会基盤の役割」をテーマとして、研究会のメンバーを中心に講演が行われ、大日本水産会の斉藤常務より話題提供が行われました。

1) カキ風評被害による生産地・消費地への経済波及分析

○古屋温美（水産物トレーサビリティ研究会常務理事）

2) 地域協働による情報発信型（衛生管理・トレーサビリティ・環境）ビジネスモデルの構築

○若林隆司（水産物トレーサビリティ研究会理事）

3) 水産物流通の出会いを支援するエージェントシステム構築

○鳴海日出人（水産物トレーサビリティ研究会理事）

4) タイ国から学ぶ品質・衛生管理とその認証システム

○中泉昌光（水産物トレーサビリティ研究会会員）

代理 長野章（水産物トレーサビリティ研究会副理事長）

5) 話題提供：エコラベルに関する国際的動向と二三の話題

○斎藤寿典（大日本水産会常務）

6) 質疑

コーディネーター：水産物トレーサビリティ研究会副理事長 長野 章
（公立はこだて未来大学教授）

研究会副理事長の長野教授の進行による質疑では、話題提供いただいた齊藤氏のエコラベルについての質問が多く寄せられました。



齊藤氏への質問の一部

OMSCの認証の基準について。例えば今審査段階の京都府底引き網漁業連合会では、もう少し具体的な認定基準があるのか、わかれば教えていただきたい。(北海道開発局農業水産部水産課 間辺課長)

○エコラベルについてのガイドラインは英語になるのか、日本語になるのか。それとも両方なのか。流通加工段階の認証を受けるには、前提として生産段階の認証を受けた物を扱うという条件が必要なのか。他の欧州、例えばノルウェーがどのような動きをされているかわかればお願いします。(財)漁港漁場漁村技術研究所第2調査研究部 黒澤部長)



会場には水産物トレーサビリティ研究会の会員をはじめ、産学官の広い分野から70名以上の多数の方々がお集まりくださいました。